

《国語の基礎確認シート9》 表現の効果

※ 解答は、解答用紙に書きましょう。



一 次は、小谷さんが作ったチラシです。同じグループの人たちは、これを見て、あとの(1)から(3)のアドバイスをしました。それぞれの()に入る言葉を書きましよう。

水辺の生き物を調べよう！

ハルナツ川水生生物観察会

1 日 時 平成27年7月5日(日)
午前10時～午後3時

2 集合場所 山川小学校正門

3 集合時間 午前9時30分

4 対 象 小学3年生以上

5 引率教員 山村先生・川村先生

6 持 参 物 ぼうし、長ぐつ、タオル
水とう、昼食、筆記用具

7 そ の 他 ○学校からハルナツ川までは、30分ほど歩きます。
○家の人といっしょに参加してもかまいません。

※参加したい人は、山村先生、川村先生、または学級担任の先生に直接申し出てください。

たくさんの人の参加を待っています！

- (1) 「観察会の開始時間と()時間とをまちがえる人がいるかもしれないので、『午前九時三十分』の下に線を入れるとよいと思います。」
- (2) 「対象が小学三年生からとなっています。チラシの中に、三年生や四年生はまだ習っていない()が使われているので、それらにふりがなを付けましよう。」
- (3) 「()方法は分かりますが、残念ながらしめきりが示されていません。」

二 あとの文は、次の文章の工夫している点について述べています。()に入る言葉を書きましよう。

十月最後の日曜日、ハルナツ川で、水野さんがなぞの生き物と出会いました。水野さんのさおにかかったその生き物は、水面から顔を出したところで大あばれして、つりばりを外してにげたそうです。水野さんは、「もしつり上げていたら、これまでつった中で一番の大きさ。顔はワニ、体はサメのようだった。」とこうふん気味に話していました。また、いっしょにつりをしていた石田さんは、「見たことがない生き物で、全長は一メートル近くあつた。ただ、手や足が見えなかつたので、ワニつてことはないと思う。」と話していました。

後日、水野さんが調べたところ、この生き物は、「アリゲーターガー」という名の、もともと日本にはいない魚である可能性が高いことが分かりました。近ごろは、かん賞用として、日本でも売られていて、大きくなりすぎて飼いきれなくなった飼い主が、川に放すことがあるそうです。ちなみに、アリゲーターガーは、最大三メートルにもなるといいます。

○ 工夫している点

「前半の文章で、読み手に、何がかかったかを()ようにしている点」